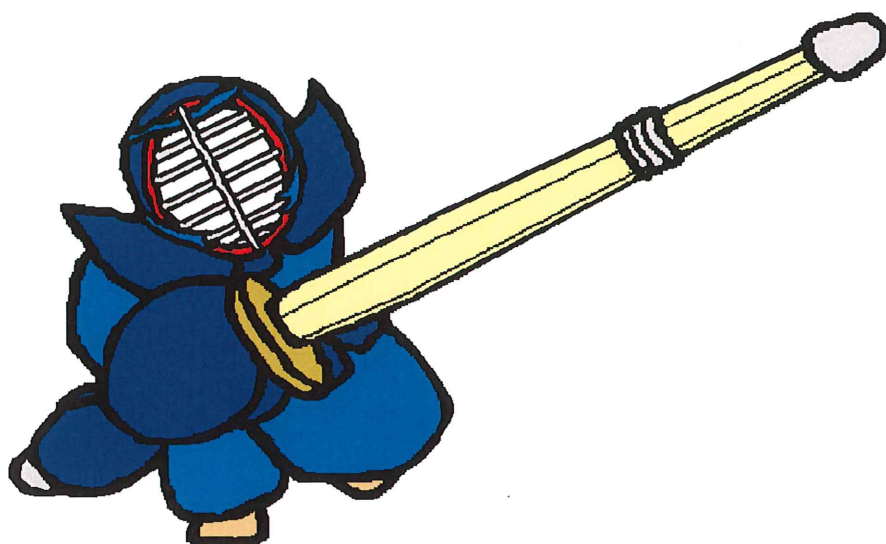


第44回 敦賀市長旗争奪 福井県少年剣道錬成敦賀大会



日時	令和7年11月24日（月・振休）10時00分開会	
会場	敦賀市総合運動公園 体育館	
主催	敦賀市剣道連盟	
後援	敦賀市	
	敦賀市教育委員会	・ 敦賀市スポーツ協会
	（一財）福井県剣道連盟	・ 福井新聞社

大会次第

開会式

選手 整 列
開 会 宣 言
国 歌 斉 唱
優 勝 旗・杯 返 還
大 会 長 挨 拶
来 賓 祝 辞
審 判 長 説 示
選 手 宣 誓

体験発表

中部地区剣道少年団研修会
小学生の部
福井県代表
砂川 亮太郎
(九頭竜武徳館)
福井市立森田小学校5年
『 剣道一直線 』

試合錬成

予選トーナメント
決勝トーナメント

閉会式

選 手 整 列
成 績 発 表
表 彰
大 会 長 挨 拶
閉 会 宣 言
解 散

大会役員

敬称略

名 誉 大 会 長	敦賀市長
大 会 長	敦賀市剣道連盟 会長
大 会 副 会 長	敦賀市剣道連盟 副会長
同	敦賀市剣道連盟 副会長
顧 問	敦賀市教育委員会 教育長
同	敦賀市スポーツ協会 会長
同	(一財)福井県剣道連盟 会長
同	福井新聞社 取締役社長
参 与	敦賀市剣道スポーツ少年団 団長
同	栗野剣道教室 館長
同	福井養正館 館長

米澤 光治
奥井 俊雄
河原 英明
上嶋 啓芳
花木 秀実
中村 紀明
片山 外一
吉田 真士
桃井 泰人
小谷 浩一
堤腰 一昭

競技役員

審 判 長	敦賀市剣道連盟 理事
大 会 委 員 長	敦賀市剣道連盟 理事長
総 務 委 員 長	敦賀市剣道連盟 事務局長
総 務 副 委 員 長	敦賀市剣道連盟 理事
総 務 委 員	敦賀市剣道連盟 理事
同	敦賀市剣道連盟 理事
同	敦賀市剣道連盟 理事
同	敦賀市剣道連盟 理事
同	敦賀市剣道連盟 理事
救 護	敦賀市剣道連盟 会員

小辻 淳二
中村 英紀
向井 俊博
堤腰 一昭
河瀬 亜希代
馬淵 清和
丸谷 寛
平口 良一
久保田 知恵子
向井 有子

審判員 ・ 補助員

審判長 小辻 淳二 (剣道教士八段)

審判員

敬称略 順不同

	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
主任 (敦賀市剣道連盟)	上嶋 啓芳 (敦剣連)	丸谷 寛 (敦剣連)	松井 宏文 (敦剣連)	中村 英紀 (敦剣連)
副主任	川村 信也 (金井)	畑 祐一郎 (鳥羽)	塚田 直人 (志士樹)	田中佐代子 (鯖江)
審判員	山田 英典 (今立)	寺崎 稔 (芦原)	高間 昭彦 (豊)	酢谷 一司 (新風館)
	平口 良一 (敦剣連)	宮田 知徳 (木田)	中野 利彦 (敦剣連)	寺木 勇人 (坂井)
	角野 弘 (敦剣連)	山田 祥広 (武生南)	橋本 一美 (今立)	奥山 登 (武生南)
	白崎 文崇 (新風館)	新渡戸 理貴 (丸岡)	徳本 英基 (神明)	遠藤 永史 (丸岡)
	小玉 完嗣 (社南)	谷口 竜哉 (敦剣連)	村井 佑輔 (敦剣連)	土手 雅人 (敦剣連)
	山崎 義尚 (芦原)	田中 隆佳 (三国)	宮澤 昭生 (福井少年)	山田 哲也 (芦原)
	梅野 秀一 (越前町)	元井 健伍 (敦剣連)	吉田 裕孝 (丸岡)	檜原 陽子 (森田)
	村井 達弥 (敦剣連)	吉村 勝三 (三方)	笠嶋 洸瑠 (木田)	中村 智 (今立)
	松岡 由佳 (松岡)	岩崎 健太郎 (神山)		竹内 貴則 (小浜)

試合場係

	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
補助員	敦賀市剣道連盟 会員 ・ 敦賀市内中学校 剣道部部員			

本部事務局係

事務局員	敦賀市剣道連盟 会員 ・ 敦賀市内少年剣道団体育てる会 会員
------	--------------------------------

選手名簿

チー ム 名	監 督	先 鋒	次 鋒	中 堅	副 将	大 将
粟野剣道教室	小谷浩一	森康太郎	大野善之	良知振一郎	森 陽菜	大野奨悟
芦原少年剣道教室	山崎義尚	篠崎蒼海	川端杏奈	橋向雅愛	久保地陽依	奥出佐希子
越前町少年剣道クラブ	梅野秀一		青山 新	木下ミマル	田中結萌	柴田雅己
小浜少年剣道教室	田中直紀		岡見涼平	岡見祐希	坂室幸太郎	服部誠大
金井学園ジュニア 剣道教室A	川村信也	田中篤樹	安富公紀	川村奏人	宮下麗々華	加藤隼人
金井学園ジュニア 剣道教室B	川村信也	中川健生	谷出陽真里	安富文昭	川村 明	松永彩希
神山剣道スポーツ 少年団	奥山 要	三好大晴	奥山 颯	垣内朝陽	南山穂佳	岸本彩莉
木田剣道スポーツ 少年団A	喜多村長夫	宮口雄暉	山崎晃太郎	五艘志月	山口瑞汰郎	玄津遼馬
木田剣道スポーツ 少年団B	喜多村長夫	朝日悠登	近藤優志	本村優奈	上田博仁	高木 歩
木田剣道スポーツ 少年団C	福嶋良仁	中村優太	永田桃子	伊藤七々星	五艘希織	乗竹蓮太郎
坂井剣道スポーツ 少年団	寺木勇人	五十嵐一仁	牧野壮志	渡邊希空	森 季正	寺木咲喜
鯖江剣道団	田中佐代子	出村朱瑞羽	藤山蒼央	出村奏羽	西倉望結	竹田朝陽
鯖江志士樹館道場	塚田直人	佐野湊太	青山隼斗	古川昊太郎	石本眞子	佐野琉太
新風館愛宕坂道場A	相模宏二郎	角潤之介	大石愛桜	笈田大成	白崎結心	榮 瑠惺
新風館愛宕坂道場B	白崎 文崇			相模沙耶	白崎奏心	田畑 仁
神明スポーツ少年団 剣道部	山本純平			小林聖空	笠島夕樹葉	木村優花
武生南剣道スポーツ 少年団	山田祥広	橋本 皐	橋本 穂	藤井奨真	奥山誠汰	山田桃璃
立待スポーツ少年団 剣道教室	上山亮二	井美遥登	近藤篤紀	平野蒼馬	酒井蒼太	井美岳大
敦賀市剣道スポーツ 少年団	奥井伸吾		伊藤弘翔	伊原碧人	井ノ口真偉	奥井美月
鳥羽スポーツ少年団 剣道部A	畑祐一郎	山森健一	竹内悠哩	大久保清太	竹内悠陽	松尾遥真
鳥羽スポーツ少年団 剣道部B	平松克敏		竹 内 杏	植村奏志	竹内彩稀	橘 伽依

選手名簿

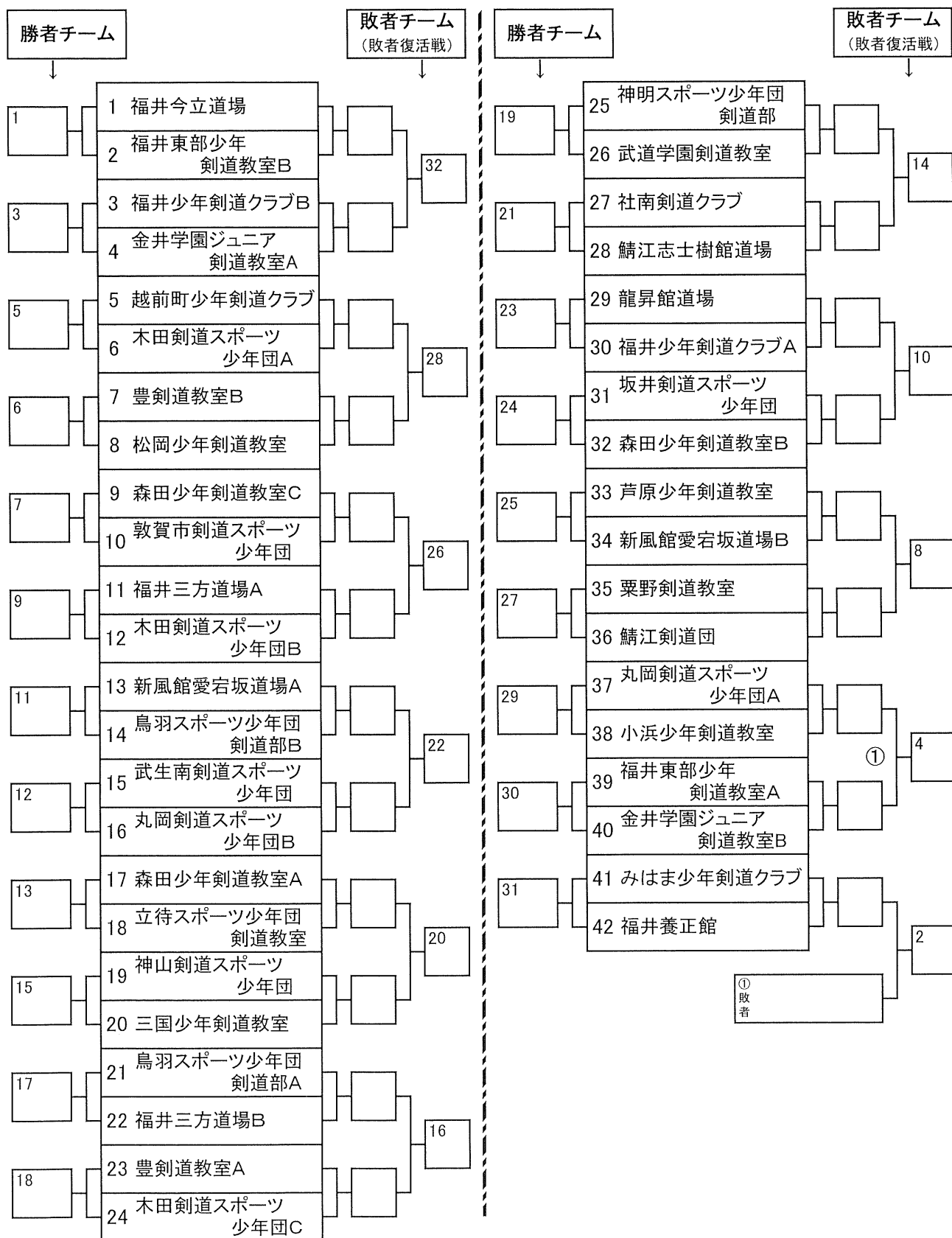
参加 : 42チーム・200名

チーム名	監督	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将
武道学園剣道教室	小辻淳二	藤田伊織	油屋和杜	半田漣斗	水島孝太	脇本煌理
福井今立道場	山田聖子	野村耀生	佐々木隆治	大久保龍之介	山田逢生	木村江那
福井少年剣道クラブA	宮澤昭生	ニツ木廉	林里緒菜	清水杏珠	光照惟一郎	小山雄大
福井少年剣道クラブB	宮澤昭生	上田歩実	高木咲輝	浅島大河	岡島朱利	佐々木丞
福井東部少年 剣道教室A	大原ゆうり	荒木梨乃	末岡桜士八	家接滉大	荒川幸穂	野村琉生
福井東部少年 剣道教室B	大原ゆうり	荒川佳観	米倉史悠	東林利恭	松田天銘	近藤 葵
福井三方道場A	吉村勝三	大下知憲	中村愛来	小堀隼弥	鳥居史暖	田辺隼大
福井三方道場B	吉村勝三	千田望乃佳	千田颯大	大野皓輝	栗駒陽向	田辺煌馬
福井養正館	北村禎彦	山口真央	岩谷理功	忽那卓磨	大友 晟	山口莉央
松岡少年剣道教室	竹本浩二	長山隼也	白崎悠誠	長岡千歳	西尾紘太郎	植松真一
丸岡剣道スポーツ 少年団A	安原真紀	秦 百花	新渡戸紫	澤真太郎	竹内康輔	下 雅人
丸岡剣道スポーツ 少年団B	新渡戸理貴	宮本直輝	宮腰奈未	佐々木淳平	新渡戸佳奈	明間悠樹
みはま少年剣道クラブ	石丸陽一朗		村上陽向	樋口鳳楽	田村泰平	上村佳和
三国少年剣道教室	岩本卓也	日高清史郎	楠川詩織	丸岡新奈	堀 美咲	永沢隼人
森田少年剣道教室A	檜原陽子	定政怜汰	田中湊真	増田悠人	砂川亮太郎	渡邊絵愛
森田少年剣道教室B	檜原恵希	前川珠希	澤本大暉	北嶋晃大	小濱千鶴	原 知沙
森田少年剣道教室C	原 康輔	宇隨龍翔	小濱実乃里	竹澤 愛玲奈	竹澤 悠雅	橋爪 翔旦
社南剣道クラブ	小玉完嗣	村中紫洸	畑 杏樹	村中翠珠乃	中村羽玖	畑 隆芽
豊剣道教室A	高間昭彦	青山嶺杜	永山 新	富樫 礼	水野絢心	宮下倫太郎
豊剣道教室B	宮下正也		橋本 暁	渡辺綾斗	西岡和寿	森 政宗
龍昇館道場	井上恭男	山本朔也	飯村優月	井上華那	前田慶次朗	向井心春

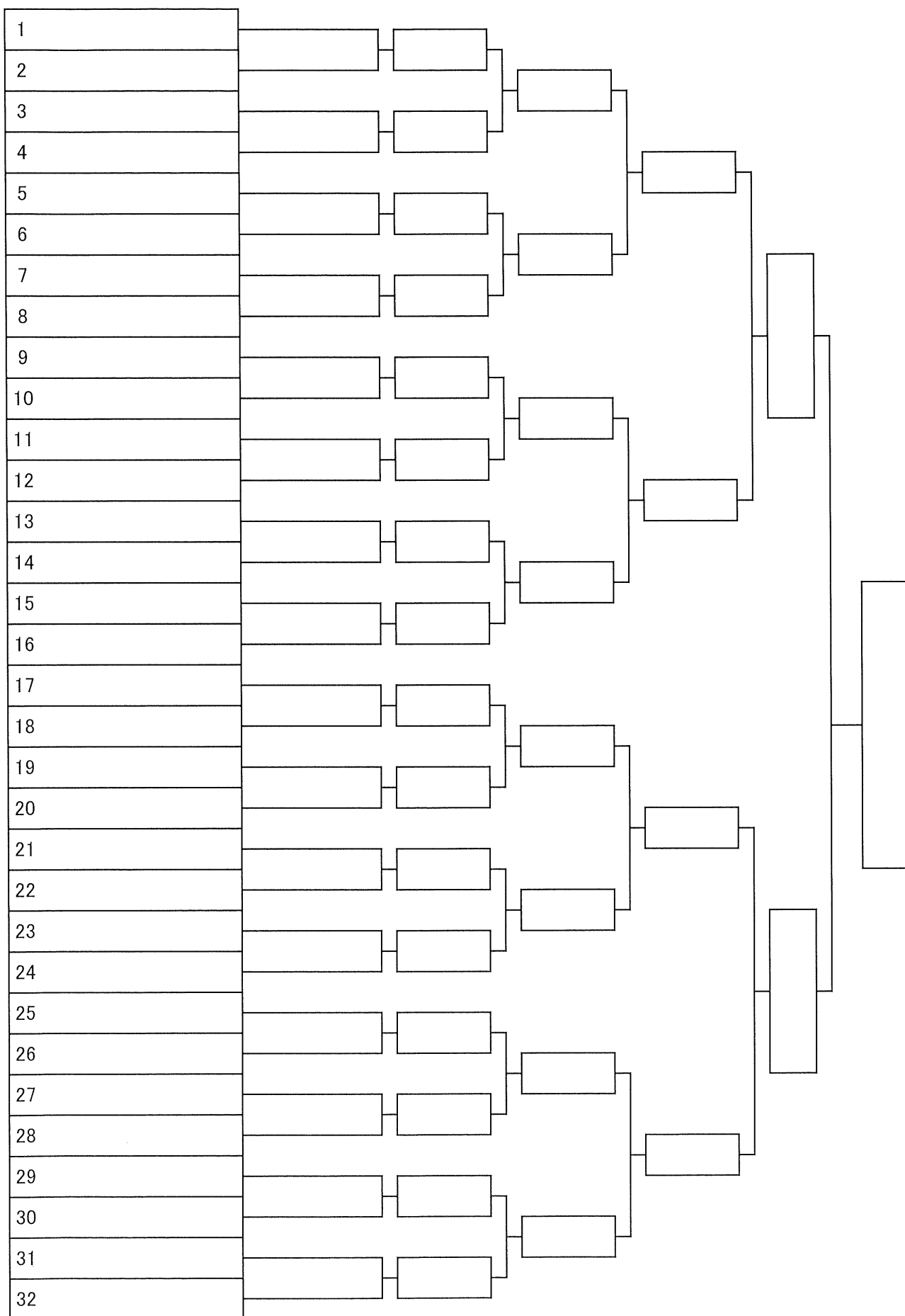
予選トーナメント

★勝者チームは決勝トーナメントへ

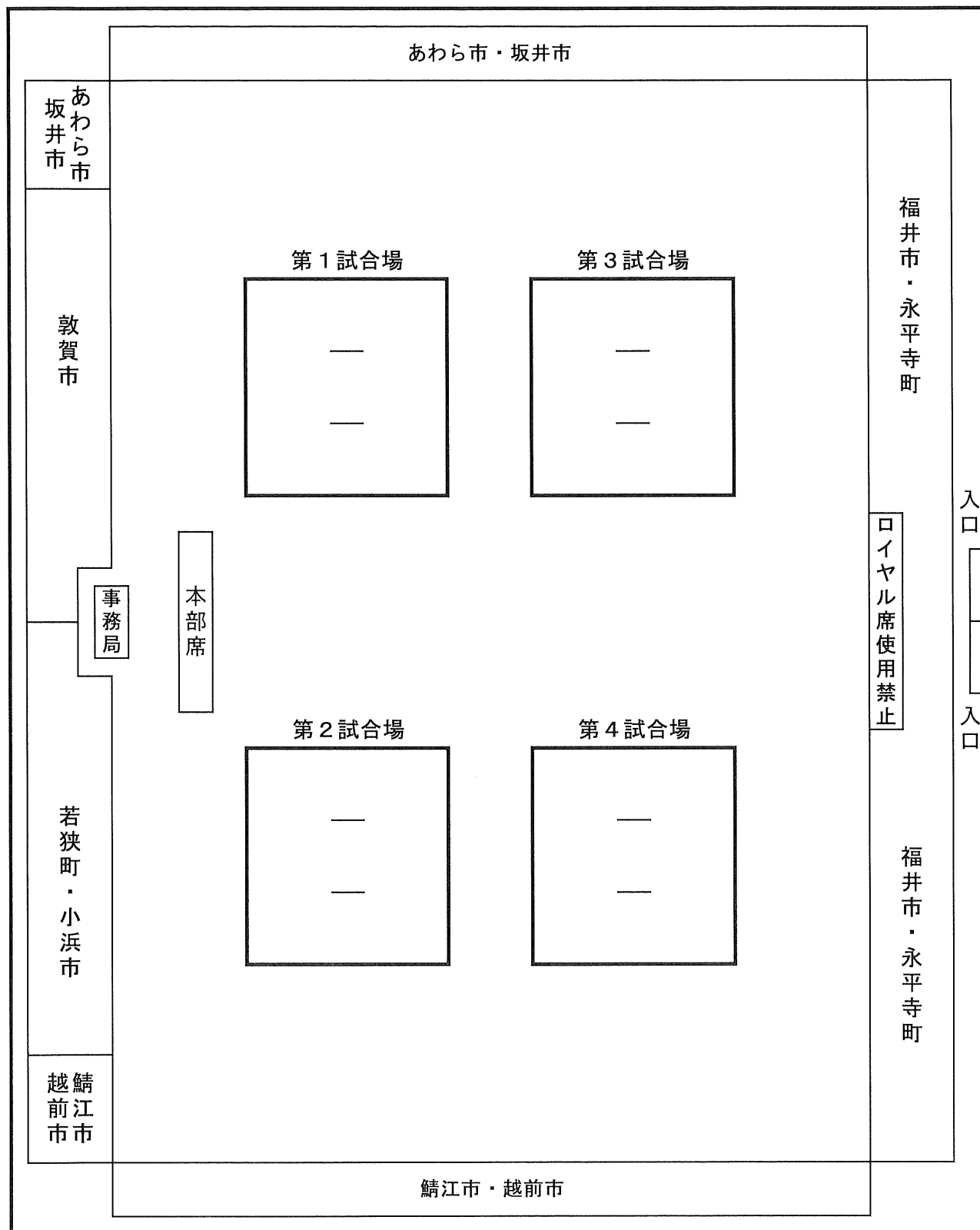
★敗者チームは敗者復活戦での勝者が決勝トーナメントへ



決勝トーナメント



大会会場図および座席割



【注意事項】

- ① 座席は、譲り合ってご使用ください。
- ② ロイヤル席は、使用禁止ですので立入らないようにお願いいたします。
- ③ ゴミは必ずお持ち帰りください。



剣道一直線

九頭竜武徳館

森田小学校 五年

砂川 亮太朗

「始め」審判の、試合開始のかけ声とともに目の前の勝負に全力で挑む。120秒間集中する。1秒たりとも気を抜いてはいけない。「ヤー」腹の底から力いっぱい声を出す。相手にプレッシャーをかけ1本を取りに行く。今まで稽古してきた技を繰り出す。相手との攻防戦の末、一瞬のスキを見つけ、相手に有効打突を決める。その瞬間旗がいつせいに上がる。これがぼくの理想の戦い方だ。

ぼくは剣道が大好きだ。剣道を始めて約3年になる。始めた頃は、厳しい稽古で嫌になる時がよくあった。正直稽古へ行きたくなかった。毎回行く直前で「行きたくない。痛いし寒いしもう嫌だ。」と泣いてしまい母を困らせた。母に励まされ、休まず毎日稽古に行く。そんな毎日をくり返しながら目の前の稽古を頑張ってきた。年度末に、道場の先生から皆勤賞の発表がある。そこで、なんと2年連続皆勤賞の表彰をされた。この表彰がぼくにとって転機となり、頑張れる糧となった。

剣道を通じて、勝負以外でも、様々なことで成長ができたように思う。一つ目は、礼儀作法が身についたことだ。剣道は「礼に始まり、礼に終わる」という言葉があるように、礼儀が重視される競技だ。試合の勝敗とは別に、相手を尊重し、正しい礼の仕方から正座の仕方、挨拶の方法など重視されている。剣道を習うことで礼儀作法が自然と身に付き、正しく礼やあいさつができるようになった。学校の先生や近所の方、または病院へ受診した際も、「お願いします」「ありがとうございます」など、あいさつをしている。「大きな声であいさつしてくれていいね」「剣道をしている子は礼儀正しく

ていいね」とほめてもらう機会が増えた。剣道をしている子は誰しもが「礼儀正しい」と周りの人はとらえているのではないかとぼくは考えた。これは「礼に始まり、礼に終わる」という教えを守り続けてきた先人の剣士達のおかげではないだろうか。ぼくは一剣士として名が恥じぬようこれからも相手に対し礼儀を尽くすことをしていきたい。

二つ目は、コミュニケーション能力が身についたことだ。剣道は、他道場の先生に助言をもらうことも多く、様々な人とのコミュニケーションが必要となる。ぼくは、錬成会などで対戦した子に声をかけ、友達になることが多い。特に印象に残っている友達は、試合をした時、強くて自分にはかなわない相手だった。上下白の道着が格好よく、思わずその子に「友達になろう！」と声をかけた。「いいよ！」と快く言ってくれ、それからは、遠征先で会うたびに話す仲になった。県内外に友達ができ、今まで稽古をしてきたことを全力でぶつけてお互い試合をする。つらい錬成会でも、友達の間場が参加するとわくわくした気持ちになる。友達の間力は大きい。

最後に、試合で負けてばかりで挫折したり、稽古で思うようにいかないこともある。「何が悪かったのか」「次にはどう活かすか」など日々模索する。竹刀の持ち方構え方、足さばき、打突までのすべてがつながっていることを意識し、自分自身の克服しなければならぬ点の原因を知り、稽古に取組むよう日々精進し明日へつなげる。そう考えられるようになったのは、剣道をすることによって、精神力や忍耐力が強くなったからだ。

ぼくの剣道人生はまだ始まったばかりだ。今後、つらいこと、苦しいことがでてくるだろう。その時は立ち止まって、次へ活かせるよう考え、理想の試合ができるように、一つ一つ地道に努力をする。また、新しい技や攻め方を研究し実践につなげるよう試行錯誤する。これからもずっと「剣道一直線」挑戦することは楽しい。

一番の敵は、剣道をするときに現れる、すぐに気を抜いてしまう自分自身。いつかは気を抜いてしまう自分に勝ちたい。長い戦いになることだろう。自分自身に戦いを挑み続ける。己に打ち勝て。

「いざ、勝負！」

記録用紙

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗

チーム名	先鋒	次鋒	中堅	副将	大将	勝敗

試合錬成結果表

優 勝		敢闘賞	
準優勝		敢闘賞	
第3位		敢闘賞	
第3位		敢闘賞	

福井県剣道連盟ホームページ

【ホームページのURL】

<https://fukui-kendo.com/>

【スマホアクセス用QRコード】



試合進行計画表

	第一試合場	第二試合場	第三試合場	第四試合場
8:50	開場 ・ 受付開始（選手アップは9時50分までとします。）			
	9:40～審判・監督会議 (サブアリーナへ集合してください。)		選手変更があるチームは、第1試合が始まる前に、各試合場審判主任に申し出てください。	
10:00	開 会 式 第48回中部地区剣道少年団研修会 小学生の部 福井県代表 砂川亮太郎(九頭竜武徳館) ※体験・実践発表			
10:30	予選トーナメント 1～10 (8試合) 敗者復活戦を含む。	予選トーナメント 11～20 (7試合) 敗者復活戦を含む。	予選トーナメント 21～30 (8試合) 敗者復活戦を含む。	予選トーナメント 31～42 (9試合) 敗者復活戦を含む。
12:10	休憩 30分(試合進行により休憩時間に変更になります)			
12:40	決勝トーナメント 1～8 (7試合)	決勝トーナメント 9～16 (7試合)	決勝トーナメント 17～24 (7試合)	決勝トーナメント 25～32 (7試合)
14:00	準決勝	準決勝		
14:20	決 勝			
14:40	閉 会 式			
15:30	解 散			

◎試合進行状況により試合場の変更があります。場内放送にご注意ください。

○サブアリーナを開放します。 アップや申し合わせ試合に活用してください。(13時00分まで)

○座席は地区ごとになっています。譲り合ってお座りください。

試合方法

○試合は、全日本剣道連盟の剣道試合規則及び審判規則・同細則により行う。

○団体戦による予選および決勝トーナメント戦による勝ち抜き試合とする。

○試合時間は予選トーナメント、決勝トーナメントともに2分3本勝負とし、
勝敗が決しない場合は引分けとする。

ただし、大將が出場した試合は、時間内に勝敗が決しない場合は、勝敗の決するまで2分間ずつ
時間を区切り延長戦を行う。大会当日、人数の欠けたチームは、順番は変えずに後ろ詰めになります。

○当日の選手変更は、一回戦開始時までとし、位置変更は認めない。